

大会名	第72回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会				チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	延長	合計
期 日	H30.6.2	会 場	TKCいちごアリーナ	試合No.	八 王 子	26	20	35	23		104
審 判	(主)若林 謙作	(副)伊東 龍一	安藤 裕之	A 3	埼 玉 栄	20	9	16	38		83

八王子学園八王子高等学校(東京)

コーチ 石川 淳一 A・コーチ 伊東 純希 マネジャー

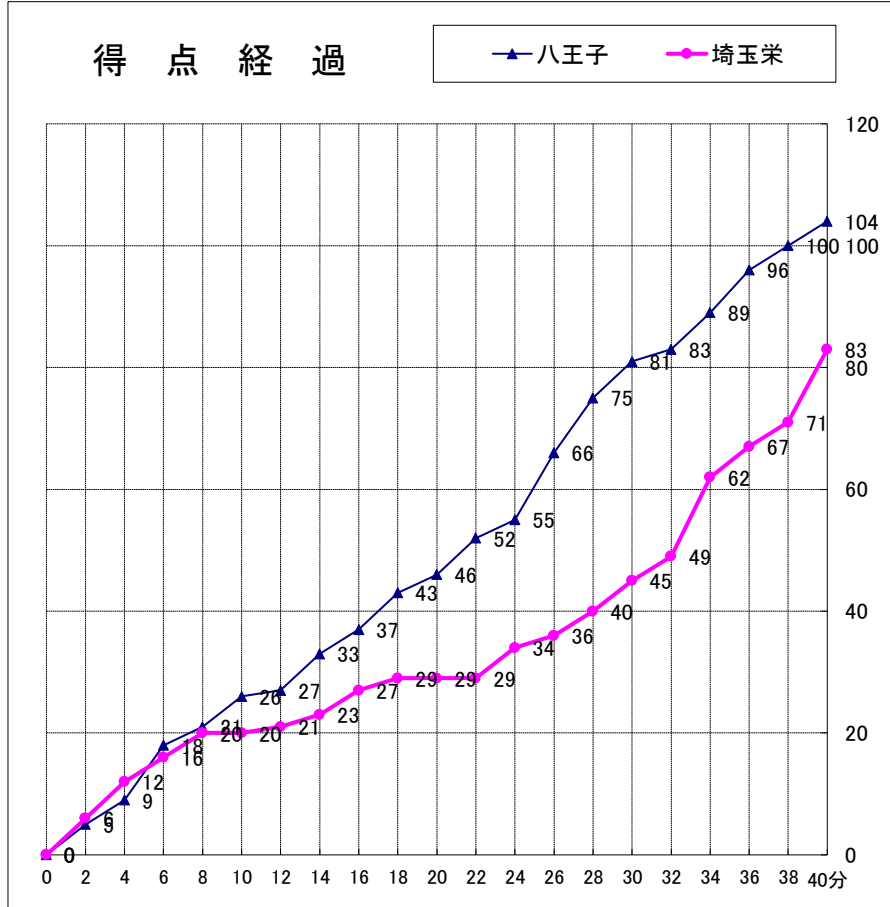
選手名	背番号	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド		
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	合計
遠藤 涼真	5	6	0	0	2	6	2	5	1	6	4	10
半田 雄資	6	6	0	1	3	8	0	0	0	0	2	2
ウスマヌ ジャ	7	17	0	0	8	12	1	2	2	4	7	11
草木 惠翔	9	2	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0
石川 竜生	10	3	0	0	1	2	1	2	4	3	2	5
鴫田 風真	11	19	0	5	7	25	5	5	2	2	8	10
木村 圭吾	12	24	1	2	9	16	3	5	2	1	0	1
箭内 貫太	13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
野村 弘樹	14	3	0	3	0	0	3	3	0	0	0	0
ハバカル アイダラ ジャロ	15	11	0	0	4	9	3	4	1	2	8	10
葉山 郷	16	4	0	0	2	4	0	0	2	0	0	0
攪上 颯斗	19	5	1	2	1	1	0	0	0	0	1	1
青山 明	20	4	0	0	2	2	0	0	0	1	1	2
川畑 輝	21	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
内田 尚人	1	0	0	1	0	3	0	0	0	0	2	2
チ ャ ム									0	1	2	3
合 計		104	2	16	40	90	18	26	17	20	38	58
成功率			12.5%		44.4%		69.2%					

埼玉栄高等学校(埼玉)

コーチ 伊藤 裕一 A・コーチ 畠中 秀陽 マネジャー 菊池 歩

選手名	背番号	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド		
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	合計
細井 啓汰	0	4	0	0	2	6	0	0	1	0	1	1
田中 志門	2	14	1	4	5	7	1	1	3	2	1	3
遠藤 柚希	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羽柴 伊吹	9	2	0	2	1	5	0	0	3	1	2	3
保坂 尚紀	11	2	0	0	1	3	0	0	0	0	1	1
本田 大河	13	24	6	14	3	6	0	0	3	1	2	3
杉山 碧	21	6	1	1	1	3	1	2	5	1	1	2
ミサカボ ベニ	23	4	0	2	2	10	0	0	2	2	6	8
磯部 海世	24	9	0	0	3	6	3	4	0	2	1	3
北島 稔平	30	8	0	1	4	7	0	0	1	0	3	3
大内 淳輝	32											
高橋 涼太	33	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
松田 昂斗	34	3	0	0	1	2	1	2	0	0	1	1
渡邊 健太	35	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
清水 大夢	41	5	0	0	2	4	1	6	0	6	7	13
チ ャ ム									0	2	3	5
合 計		83	8	24	26	60	7	15	19	17	30	47
成功率			33.3%		43.3%		46.7%					

得点経過



戦評

圧倒的な高さの八王子と、高い身体能力から繰り出される1対1が持ち味の埼玉栄の一戦。ディフェンスは、両チームともにハーフコートマンツーマンを敷いた。八王子は、ミドルシュートや#15ハバカルのゴール下や#7ウスマスのダンクシュートで得点を重ねる。一方の埼玉栄は、#2田中、#13本田、#30北島のスピードを生かし、キレのある1対1で点をもぎ取った。埼玉栄#41清水の連続オフェンスリバウンドがチームの勢いをつける場面もあったが、26対20八王子リードで第1ピリオドは終了した。第2ピリオド、埼玉栄は八王子のディフェンスに苦しむ。パスミスが目立ち、八王子のスティールからの速攻が点差を徐々に広げた。埼玉栄は#30北島の折り紙つきの1対1で得点するも29対46と17点差がついて前半を終えることとなった。第3ピリオド、八王子#11鴫田のミドルシュートから始まり、#5のバスケットカウントなどで前半の良い流れのままに試合を運ぼうとする八王子に対し、埼玉栄は#9のドライブ、#21の3Pで対抗する。しかし、八王子が立て続けに速攻を出し、流れは変わらず八王子のまま。#13が3Pを連続で決めるが、81対45八王子の大量リードで最終ピリオドを迎える。埼玉栄は、#2田中のバスケットカウント、#13本田の3P、#30北島のドライブで奮闘するも傾いた流れを戻すことは難しく、104対83で八王子が勝利を手にした。ベンチプレーヤーを全員投入し、小さくとも最後まで自分たちのバスケットを貫いた埼玉栄の根性は、心にグッと来るものがあった。両チームの健闘を讃えたい。

記入者 小山 幸宏